

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 12月 16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493500064		
法人名	株式会社 楽生舎		
事業所名	グループホームつつじの家		
所在地	広島県山県郡北広島町壬生915-1 (電話) (0826) 72-7575		
自己評価作成日	平成22年8月22日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3493500064&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成22年9月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>小学校などの施設も近くにあり、ホームの前が通学路になっている為、児童とのふれあいも取りやすい環境になっている。庭には畑もあり家庭菜園が出来る。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームつつじの家(以下、ホーム)は、北広島町の中心部田園風景が広がる自然環境の良いところに位置しています。ホームは、北広島病院を中核とした関連法人の特別養護老人ホーム、老人保健施設、在宅センター等が立地する一角にあります。ホームでのケアは、医療、福祉、保健の密接な連携のもとに行われ、地域住民の安心安全にも繋がっています。ホームでは、週1回の健康チェックが行われ、利用者の健康管理や安心安全に配慮されています。また、創設以来アニマルセラピー犬が飼われ、利用者の癒しとなっています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(1F)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼時には基本理念や接客用語の唱和を行い、日々目標を確認しながらケアが行える様徹底している。 所内の見易い位置に理念や目標を掲示する事により、それぞれの職員が常に再確認を行う事が出来る。また、ホーム独自の目標を持ち日々の関わりの中で実践に取り組んでいる。	「利用者を尊敬し、個人のプライバシーを守り、安心して生活が送れるよう援助します」などのホームの理念を毎日朝礼で確認され、日々のケアに活かされています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の参加可能な行事には参加し交流を図るよう努めている。防災訓練など、地域の方の協力の下合同で行っている。	学校の運動会への参加、地域住民との防災訓練の共同実施などが行われています。	利用者が地域で暮らし続けるための基盤作りや、地域の一員としての取り組みが求められます。まず、地域の自治会に加入され、地域行事への参加など、地域との交流を図られることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在、事業所へのサービス利用の相談には応じることもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に行っている。会議で行った意見交換は記録・保管し、内容についてホームのスタッフと改善策について話し合うなどしてサービス向上に努めている。	会議は、ほぼ2か月ごとに開催され、会議の結果をサービス向上に活かされています。また、必要に応じて消防署などの関係者が参加され、業務改善につなげています。	運営推進会議のメンバーに自治会役員、警察官なども加えて、地域の安全管理の面から情報や協力を得ることも必要と考えます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	町の担当者とは常に電話や意見交換などで情報交換を行いながら連携を保っている。また、運営推進会議への参加も受け情報交換に努めている。	町役場の担当者とは、必要に応じて連携が図られています。このほか、2か月に1回の運営推進会議への出席、1年に1回の指導監査を通じた行き来があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルを全職員がいつでも閲覧できる場所に設置している。また、研修の機会があれば参加し拘束に関する知識を深めるよう努めている。玄関の施錠はおもて通りの交通量の多さもあり危険防止のため入居者とその家族に許可を得て施錠する場合もある。</p>	<p>身体拘束をしないケアに努めておられます。ホームの前に幹線道路があり、危険防止のため、玄関の施錠をされています。</p>	<p>玄関の施錠は、利用者自身の意思で開けることができないために身体拘束につながるということを認識され、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援することについてホームの工夫や取り組みを期待します。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部での勉強会への参加などへも参加し、職員へ伝達する事により職員一人一人が意識しながら取り組むようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会などにより制度については学ぶ機会を持っている。現在、対象者はいないが、必要に応じて支援できるよう努めて行きたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居の際には契約書の説明をきちんと行うと共に、家族の話をしっかり聞くように努めている。入居後も都度家族からの話を受けている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>普段のコミュニケーションや、表情の観察から入居者の思いを読み取りサービスの向上に反映している。また、玄関にアンケートボックスの設置や、家族会面会時など、家族の意見も取り入れている。</p>	<p>運営推進会議には家族も出席し、意見を出す機会が設けられています。家族の思いとしては、できるだけ長くこのホームへの入居を続けたいとの意向があるようです。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に一回の全体会や必要に応じて話し合いの場を持つなど意見を聞き入れるようにしている。</p>	<p>月1回職員の全体会を開催し、業務改善事項、ケアの見直し、提案事項、研修会への参加希望の把握などの検討会を開催されています。予算を伴う内容については、法人の代表と協議されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	法人内での部署別発表会などでGHとしての取り組みについて発表を行い、個人の意欲向上・チームとしてのケアや意欲の向上を図っている。又、グループ内に託児所もあり育児をしながら働ける環境や休暇についても家庭の事情などに柔軟に配慮できる体制をとっている。		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	法人内では定期的に研修を行っている。又、外部での研修の情報収集に努め職員一人ひとりが、順々に参加できる機会を設けている。資格の取得に関しても勉強会を開くなどしてサポートに努めている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	各種サービス事業者が日々の業務やサービスの中で成果を上げた内容を発表しあう部署別発表会などを行い、それぞれの事業所のサービスの質の向上に反映している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	入居時に本人やご家族からの情報収集を行いアセスメントをとり、必要なサービス支援が行えるよう職員が情報を共有しながら取り組むようにしている。		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	入居の際に限らず面会の際などご家族のご都合により時間を作り要望を受けるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者ご家族からの情報収集を行いながら必要なサービス支援が行えるよう職員が情報を共有しながら取り組むようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者と共にある事を念頭に日々の活動をともし、昔行っていた家事や仕事、趣味など培ったものを教えていただきながらよりよい関係を築けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には入居者の近況を伝えるなどコミュニケーションを図りながら、時には必要に応じて他の病院の受診などのサポートして頂くなど一緒に本人を支えて行けるよう関係作りに勤めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人やご家族からの情報収集により馴染みの関係や場所の把握に努めるとともに可能な限り、その関係を保てるよう努めている。	居室に固定電話を引き込み、家族や友人との連絡を取る利用者もおられます。近隣住民の面会や、行きつけの美容院での整髪されるなど、ホームへの入居後もなじみの関係が保てるよう努力されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活の中で入居者同士の会話取り持つ等の支援し関係作りに気を配り、トラブルが生じても早めに対応できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	GH退居後も、関連事業所を利用されるケースが多く入居者や御家族との交流は勤めていけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いは生活背景や家族からの聞き取りなどから汲み取り支援している。毎日の体調や状況に応じて、本人本位となるよう支援している。	近年は、認知症が進む利用者が多く、本人からの希望の把握が難しくなっています。このため、これまでの生活状況や家族の希望を聞き、利用者本位のケアに努めておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	関連事業所やご家族からの聞き取りなどを行い入居者の情報収集に努めている。可能であればご本人からの聞き取りもあわせて行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の身体状態や生活リズムの観察を行い、それぞれにあった生活をしていただけるよう支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	部屋ごとに担当職員を決め、本人の状態を家族に態を把握している。介護計画の作成には日頃の状態を家族、ケアマネジャー、介護者とも話し合い全職員で検討し本人の意向に沿った介護計画を作成している。	家族及び利用者の意向と、解決すべき課題を把握したうえで、利用者の歩行状態、健康状態に注意して、役割のある生活を基本にした介護計画の見直しに取り組んでおられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の様子や変化は、記録をを行い必要事項は申し送りやカンファレンスで情報を共有して見直しに生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	関連事業所とも常に連携をとりながら、情報の共有を行い、GHへの、入居や退去などの対応が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>法人での取り組みとして、民生委員さんと定期的に話し合いや、必要に応じて行政・消防機関の方に運営推進会議の参加を依頼し、情報交換を行っている。また各事業所のサービス説明を行い、必要なサービスに繋げていけるようなパイプ作りに取り組んでいる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>今までのかかりつけ医が、ある方には継続して受診できるよう勤めている。現在、入居されている方は、母体の病院をかかりつけ医としている方が多くご家族の要望もあり継続して診ていただいている。</p>	<p>今までのかかりつけ医の受診が必要な利用者には、継続して受診ができるよう支援されています。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>医療連携体制をとっており、契約を交わした訪問看護ステーションの看護師が定期的に訪問し利用者の体調管理・医療的なアドバイスや相談援助を行っている。又、緊急時や休日にもすぐに連絡できる体制をとっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>日頃から、情報交換を行っており、入院があった際は特に状態の把握に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>将来のことについては、ご家族とも折を見て話し合う機会を設けている。終末期のケアのあり方についてはご家族の要望を考慮しながら主治医とも連携を図りながら行っている。又、医療連携をとっている訪問看護師と対応指針を作成しご家族に対し同意書による同意も取っている。</p>	<p>終末期のケアのあり方について、指針を作成し、家族に説明するとともに、同意を得ておられます。また、医療連携体制を築いている訪問看護師による訪問が可能です。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生に対するマニュアルを備え付け連絡手順や対処法などを記しており、全職員が閲覧できる場所に設置している。また、訪問看護師の訪問時に医療的アドバイスを受けてたり内部研修で心配蘇生法の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の方と協力協定を結んでおり、定期的に合同での避難訓練を行っている。実際に職員だけの訓練とせず、入居者にも参加していただく事で、地域の方へもどんな方がいらっしゃるか理解をいただけていると思う。	地域の自治会と協力協定を結び、定期的に合同避難訓練が行われています。また、利用者も避難訓練に参加されています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報取り扱いの方針を事業所内に掲示し、個人情報の保守や入居者の尊厳の保持には、常に心がけながら日々のケアに努めている。記録等の取り扱いについても配慮しながら行っている。	部屋の入り口ドアは、プライバシー保護への配慮で、すりガラスを使用されています。また、記録の保管についても、別室に保管されるなどの配慮をされています。また、来訪者が分かる状態にするため、玄関先に面会用のノートを置き、家族の面会時に名前等を記入して入室することになっています。	面会者のプライバシーの保護にも配慮が必要であると考えられます。例えば、面会記録を1件ずつ記入できるカード方式に変更するなどの工夫を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の表情や言動などから、思いや意思が汲み取れるような働きかけや声掛けを行っている。入居者の自己決定を尊重できるよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者のその日の状態に応じて、ご本人のペースや要望に合わせて生活していただけよう、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	地元の理容院にご協力いただき、定期的にボランティア出張していただいている。又、ご本人やご家族のご希望に応じ以前よりの、行きつけの理容院を続けて利用していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	事業所の理念が『食』であり、副食は関連の益水興産より分けていただいている。主食は米とぎから行い、。片付けは台拭きや膳拭きなど出来ることを入居者様と協力しながら行ってもらう。行事など季節に応じて調理の機会ももうけている。	食材は地元産の米、野菜を使用されています。食事は、給食会社からのおかずのほかに一品はホームで手作りをされています。また、ご飯もホームで炊いています。準備や後片付けは、利用者と協力して行っておられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の摂取量に合わせた配膳を行い、摂取量の確認によって状態の観察に努めている。水分量も都度確認を行いながら脱水予防に努めている。水分の入りにくい方には好みや、嚥下状態などに合わせた飲み物を準備するなどの工夫に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、個人の能力に合わせながら、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。口腔ケアを行うと共に口腔内の状態の観察や義歯が合うかどうかの観察も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人個人の排泄パターンを把握し個々の残存能力を生かしつつ、声掛けや誘導など統一したケアが行えるように努めている。また、病気などでオシメを使用する場合も状態が落ち着いたら以前の状態に戻せるよう努めている。	利用者の排泄パターンを把握し、さりげなく声かけや誘導をされています。また、やむを得ず夜間はおむつを利用される場合もありますが、自立に向けた支援は怠らないよう配慮されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事・おやつ以外にも適宜水分摂取出来るよう促している。水分の入りにくい方には好みの物を用意するなど工夫する。散歩などの運動を促しながら、必要に応じて内服やSPなど入居者の状態に合わせたコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者の体調や希望に応じて入浴を行うようにしている。 発汗や排泄などの汚染の際も、シャワー浴を行ったりするように柔軟に対応できるよう心掛けている。	週2回の入浴が原則ですが、体調や希望に応じて入浴をされています。また、季節によって、菖蒲湯や柚子湯を楽しむことができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣にあわせ起床・就寝など柔軟に対応している。居室の室温なども季節に応じ、管理するなど入眠しやすい環境作りにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方書の指示書や医師からの指示により内服についての用法・用量等の理解に努めるとともに、入居者の状態の把握を行う。配薬が必要な方に対しては一日分ずつケースへ入れて誤薬のないよう名前を確認しながら行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴や趣味などを生かし、ご本人の希望に応じ畑仕事や掃除を行い、役割のある方は、安全面に注意して継続できるよう援助している。又、楽しみにも重点を置いた歌や散歩なども行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望される入居者には職員が同行し安全に配慮しつつ外出を楽しんでいる。また、散歩やドライブ、買い物などの介護者側からの定期的なアプローチも行っている。	毎日の散歩やスーパーへの買い物、行きつけの美容院などへも出かけられています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談の上、個人管理が可能な方は、自己管理していただき、紛失されてしまう方は、ご本人の了承の下こちらで管理し必要な際には、お渡しできるよう支援している。支援があれば買い物が可能な方は、同行するなどの援助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人からの要望に応じ、電話の場合は可能な方には、直接、話していただいている。番号を押すなどは支援している。手紙も要望があれば、投函などを支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ブラインドや空調による光や温度の調節を行うと共に、玄関先や中庭などに花を植えたり、飾り付けも季節感を感じられるような工夫を行う。テレビの音量も離れた所からでもわかり易い様にホールの天井にスピーカーの分離機を設置している。	ホールには食卓のほかソファも置かれ、テレビを見たり、新聞を読んだりのゆったりとした生活が送れるように工夫されています。冬には、床暖房が入るとともに、畳の部屋には掘り炬燵が入ります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファの配置など考えて行う。自然と入居者が居室から出てきては話をする等の憩いの場にホールがなっている。また、気の合った入居者同士と一緒に過ごせるよう食堂の席の配置も考慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室のベットやチェストは備え付けのものがあるが、その他の小物などは入居者の好みなどに合わせて自由に持ち込んでいただいている。	居室は南側に配置されており、日当たりもよく快適な環境となっています。居室にテレビ、固定電話を引いておられる利用者もあります。家庭と同じような雰囲気となっています。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	入居者が安全に家事などの役割をしたりして生活できるよう整理するなどの環境整備に努めている。又、居室やトイレが分かりにくい方に対しては、見えやすく大きく名前を書くなど配慮している。		

V アウトカム項目(1F)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営 (2F)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼時には基本理念や接客用語の唱和を行い、日々目標を確認しながらケアが行える様徹底している。 所内の見易い位置に理念や目標を掲示する事により、それぞれの職員が常に再確認を行う事が出来る。また、ホーム独自の目標を持ち日々の関わりの中で実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の参加可能な行事には参加し交流を図るよう努めている。防災訓練など、地域の方の協力の下合同で行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在、事業所へのサービス利用の相談には応じることもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に行っている。会議で行った意見交換は記録・保管し、内容についてホームのスタッフと改善策について話し合うなどしてサービス向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	町の担当者とは常に電話や意見交換などで情報交換を行いながら連携を保っている。また、運営推進会議への参加も受け情報交換に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルを全職員がいつでも閲覧できる場所に設置している。また、研修の機会があれば参加し拘束に関する知識を深めるよう努めている。玄関の施錠はをもて通りの交通量の多さもあり危険防止のため入居者とその家族に許可を得て施錠する場合もある。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部での勉強会への参加などへも参加し、職員へ伝達する事により職員一人一人が意識しながら取り組むようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会などにより制度については学ぶ機会を持っている。現在、対象者はいないが、必要に応じて支援できるよう努めて行きたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居の際には契約書の説明をきちんと行うと共に、家族の話をしっかり聞くように努めている。 入居後も都度家族からの話を受けている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>普段のコミュニケーションや、表情の観察から入居者の思いを読み取りサービスの向上に反映している。また、玄関にアンケートボックスの設置や、家族会面会時など、家族の意見も取り入れている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に一回の全体会や必要に応じて話し合いの場を持つなど意見を聞き入れるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人内での部署別発表会などでGHとしての取り組みについて発表を行い、個人の意欲向上・チームとしてのケアや意欲の向上を図っている。又、グループ内に託児所もあり育児をしながら働ける環境や休暇についても家庭の事情などに柔軟に配慮できる体制をとっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内では定期的に研修を行っている。又、外部での研修の情報収集に努め職員一人ひとりが、順々に参加できる機会を設けている。資格の取得に関しても勉強会を開くなどしてサポートに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>各種サービス事業者が日々の業務やサービスの中で成果を上げた内容を発表しあう部署別発表会などを行い、それぞれの事業所のサービスの質の向上に反映している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居時に本人やご家族からの情報収集を行いアセスメントをとり、必要なサービス支援が行えるよう職員が情報を共有しながら取り組むようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居の際に限らず面会の際などご家族のご都合により時間を作り要望を受けるように心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者ご家族からの情報収集を行いながら必要なサービス支援が行えるよう職員が情報を共有しながら取り組むようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者と共にある事を念頭に日々の活動をともし、昔行っていた家事や仕事、趣味など培ったものを教えていただきながらよりよい関係を築けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には入居者の近況を伝えるなどコミュニケーションを図りながら、時には必要に応じて他の病院の受診などのサポートして頂くなど一緒に本人を支えて行けるよう関係作りに勤めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人やご家族からの情報収集により馴染みの関係や場所の把握に努めるとともに可能な限り、その関係を保てるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活の中で入居者同士の会話取り持つ等の支援し関係作りに気を配り、トラブルが生じても早めに対応できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	GH退居後も、関連事業所を利用されるケースが多く入居者や御家族との交流は勤めていけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いは生活背景や家族からの聞き取りなどから汲み取り支援している。毎日の体調や状況に応じて、本人本位となるよう支援している。	認知症が進み本人希望の把握が難しくなっています。このため、これまでの生活状況や家族の希望をうかがい、本人本位のケアに努めておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	関連事業所やご家族からの聞き取りなどを行い入居者の情報収集に努めている。可能であればご本人からの聞き取りもあわせて行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の身体状態や生活リズムの観察を行い、それぞれにあった生活をしていただけるよう支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	部屋ごとに担当職員を決め、本人の状態を家族に態を把握している。介護計画の作成には日頃の状態を家族、ケアマネジャー、介護者とも話し合い全職員で検討し本人の意向に沿った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の様子や変化は、記録をを行い必要事項は申し送りやカンファレンスで情報を共有して見直しに生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	関連事業所とも常に連携をとりながら、情報の共有を行い、GHへの、入居や退去などの対応が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>法人での取り組みとして、民生委員さんと定期的に話し合いや、必要に応じて行政・消防機関の方に運営推進会議の参加を依頼し、情報交換を行っている。また各事業所のサービス説明を行い、必要なサービスに繋げていけるようなパイプ作りに取り組んでいる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>今までのかかりつけ医が、ある方には継続して受診できるよう勤めている。現在、入居されている方は、母体の病院をかかりつけ医としている方が多くご家族の要望もあり継続して診ていただいている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>医療連携体制をとっており、契約を交わした訪問看護ステーションの看護師が定期的に訪問し利用者の体調管理・医療的なアドバイスや相談援助を行っている。又、緊急時や休日にもすぐに連絡できる体制をとっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>日頃から、情報交換を行っており、入院があった際は特に状態の把握に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>将来のことについては、ご家族とも折を見て話し合う機会を設けている。終末期のケアのあり方についてはご家族の要望を考慮しながら主治医とも連携を図りながら行っている。又、医療連携をとっている訪問看護師と対応指針を作成しご家族に対し同意書による同意も取っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生に対するマニュアルを備え付け連絡手順や対処法などを記しており、全職員が閲覧できる場所に設置している。また、訪問看護師の訪問時に医療的アドバイスを受けてたり内部研修で心配蘇生法の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の方と協力協定を結んでおり、定期的に合同での避難訓練を行っている。実際に職員だけの訓練とせず、入居者にも参加していただく事で、地域の方へもどんな方がいらっしゃるか理解をいただけていると思う。	地域の自治会と協力協定を結ばれており、定期的に合同での避難訓練が行われています。入居者も避難訓練に参加されています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報取り扱いの方針を事業所内に掲示し、個人情報の保守や入居者の尊厳の保持には、常に心がけながら日々のケアに努めている。記録等の取り扱いについても配慮しながら行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の表情や言動などから、思いや意思が汲み取れるような働きかけや声掛けを行っている。入居者の自己決定を尊重できるよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者のその日の状態に応じて、ご本人のペースや要望に合わせて生活していただけるよう、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	地元の理容院にご協力いただき、定期的にボランティア出張していただいている。又、ご本人やご家族のご希望に応じ以前よりの、行きつけの理容院を続けて利用していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	事業所の理念が『食』であり、副食は関連の益水興産より分けていただいている。主食は米とぎから行い、片付けは台拭きや膳拭きなど出来ることを入居者様と協力しながら行ってもらう。行事など季節に応じて調理の機会ももうけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の摂取量に合わせた配膳を行い、摂取量の確認によって状態の観察に努めている。水分量も都度確認を行いながら脱水予防に努めている。水分の入りにくい方には好みや、嚥下状態などに合わせた飲み物を準備するなどの工夫に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、個人の能力に合わせながら、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。口腔ケアを行うと共に口腔内の状態の観察や義歯が合うかどうかの観察も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人個人の排泄パターンを把握し個々の残存能力を生かしつつ、声掛けや誘導など統一したケアが行えるように努めている。また、病気などでオシメを使用する場合も状態が落ち着いたら以前の状態に戻せるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事・おやつ以外にも適宜水分摂取出来るよう促している。水分の入りにくい方には好みの物を用意するなど工夫する。散歩などの運動を促しながら、必要に応じて内服やSPなど入居者の状態に合わせたコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者の体調や希望に応じて入浴を行うようにしている。 発汗や排泄などの汚染の際も、シャワー浴を行ったりするように柔軟に対応できるよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣にあわせ起床・就寝など柔軟に対応している。居室の室温なども季節に応じ、管理するなど入眠しやすい環境作りにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方書の指示書や医師からの指示により内服についての用法・用量等の理解に努めるとともに、入居者の状態の把握を行う。配薬が必要な方に対しては一日分ずつケースへ入れて誤薬のないよう名前を確認しながら行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴や趣味などを生かし、ご本人の希望に応じ畑仕事や掃除を行い、役割のある方は、安全面に注意して継続できるよう援助している。又、楽しみにも重点を置いた歌や散歩なども行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望される入居者には職員が同行し安全に配慮しつつ外出を楽しんでいる。また、散歩やドライブ、買い物などの介護者側からの定期的なアプローチも行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談の上、個人管理が可能な方は、自己管理していただき、紛失されてしまう方は、ご本人の了承の下こちらで管理し必要な際には、お渡しできるよう支援している。支援があれば買い物が可能な方は、同行するなどの援助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人からの要望に応じ、電話の場合は可能な方には、直接、話していただいている。番号を押すなどは支援している。手紙も要望があれば、投函などを支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ブラインドや空調による光や温度の調節を行うと共に、玄関先や中庭などに花を植えたり、飾り付けも季節感を感じられるような工夫を行う。テレビの音量も離れた所からでもわかり易い様にホールの天井にスピーカーの分離機を設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファの配置など考えて行う。自然と入居者が居室から出てきては話をする等の憩いの場にホールがなっている。また、気の合った入居者同士と一緒に過ごせるよう食堂の席の配置も考慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室のベットやチェストは備え付けのものがあるが、その他の小物などは入居者の好みなどに合わせて自由に持ち込んでいただいている。		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	入居者が安全に家事などの役割をしたりして生活できるよう整理するなどの環境整備に努めている。又、居室やトイレが分かりにくい方に対しては、見えやすく大きく名前を書くなど配慮している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームつつじの家

作成日 平成 22年 12月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	防災訓練では、近隣住民との協力を得ながら行っている。又、地域行事も時折参加している。しかし、頻度的には乏しい。	地域と関わる機会を増やす。	・運営推進会議などで地域関係者等からの情報収集を得ると共に、地域行事への積極的な参加を行う。	H23年1月1日～ H23年12月31日
2	4	平成22年度の運営推進会議では、消防署職員の参加を得たが、警察官や自治体関係者などの参加は得ていない。	多方面からの会議への参加者を増やす。	・地区の区長や警察関係者などへの参加の働きかけを行う。	H23年1月1日～ H23年12月31日
3	6	表通りの交通量の面などから安全管理のためやもえず玄関に施錠をしている。	落ち着いている際の玄関の開放。	・玄関より出ようとした際、早期発見、対応出来る様環境を整える。	H23年1月1日～ H23年12月31日
4	36	面会簿がノート式のもので、面会時に他者の目に触れる心配があった。	1枚式のものにして他者の目に触れないようにする。	・1回に1枚書ける用紙を作成する。 ・用紙を入れる箱を設置する。 ・家族の閲覧希望に添えるよう個別の保管ファイルを作成する。	H22年9月29日達成済み
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。